

# 福電協会報

第88号



一般社団法人 福岡電業協会  
2018.1

# 福電協会報

## 第88号

### ◀もくじ▶

会長挨拶	西村 松次	1
祝 辞 国土交通省九州地方整備局		
局長 増田 博行	2	
福岡県知事 小川 洋	3	
福岡市長 高島宗一郎	4	
平成30年新年賀詞交歓会	5	
施設紹介		
福岡第1法務総合庁舎の紹介	6	
技術レポート		
大学病院施設における受変電設備更新工事	8	
産婦人科病院施工における留意事項	10	
シリーズ職場訪問		
新生テクノス株式会社	14	
シリーズ郷土	須恵町	16
写真コンクール(第37回)	19	
横顔紹介と隨筆	23	
事業報告		
平成29年度「技術見学会」実施	33	
技術講習会の実施	34	
平成29年度「福岡県総合防災訓練」参加	35	
「実技講習会」を開催	36	
国交省・九地整との定例懇談会開催	37	
高校生「施工現場見学会」を開催	38	
第25回福電協ボウリング大会	39	
福電協ゴルフ大会(86・87回)	40	
委員会だより		
総務委員会	42	
広報委員会	42	
技術委員会	42	
事業委員会	43	
協会組織	44	
会員名簿	45	
役員名簿	48	

### 表紙のことば

福岡市の旧浜の町病院跡地に法務省関係官署が入居する福岡第1法務総合庁舎が新設された。

設備としては環境に配慮し、主照明はLED器具を採用、屋上に太陽光発電システム設置、グレーと黒を基調とした落ち着いたデザインの建物となっている

## 新アクションプランの 重点目標を着実に実現する

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西 村 松 次



新年、明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

福岡電業協会は、日本電設工業協会と歩調を合わせ、電気工事業界の健全な進歩発展と、社会公共の福祉増進に寄与してまいります。

昨年の日本経済は、バブル崩壊後の最高値を日経平均株価が記録するなど、引き続き堅調に推移しており、しばらく忙しい状況が続くことと思われます。

又、一昨年の熊本地震に続き、昨年7月には朝倉市を中心とする九州北部豪雨が発生し、当協会においても、福岡県と締結している「災害時における電気設備等機能復旧に関する協定書」に基づき災害復旧にも取組みました。今後共に災害に備えることも協会の大きな役割であることを再認識しております。

さて、建設業界の最大のテーマは「働き方改革」であり「人材の確保・育成」であります。

働きやすく魅力ある職場にするためには「働き方改革」を強力に進める必要があります。

電設業界は工事内容の特性から個々の会社の努力だけでは解決できない要因も多く、建設業界全体として取り組みをやらなければなりません。

日本電設工業協会として他業種と協調した活動を始めたところであり、今年も業界をあげて前進せなければなりません。

福岡電業協会としても、地場のゼネコン様をはじめ、いろいろな方とも協調し、週2日の休日を必ず

取得できるように努力してまいりたいと思います。

この「働き方改革」の推進は「人材の確保・育成」にも結びつくものであります。

昨年は若者の入職促進を図る目的として各種事業活動を開催しました。

工業高校生を対象として現場見学会やO Bとの意見交換会を開催、それに加え昨年は出前講座も実施しました。

技能者の能力向上にむけた実技講習会の実施、技術者のための技術講習会の開催等、数多くの事業活動を通して我々建設業に対する魅力・やりがい・達成感を情報発信し、理解度アップに今後とも努めてまいります。

今年も「夢と生きがいのある電設業界」を目指し、新アクションプランの重点目標を着実に実現するため、正会員・賛助会員のみならず、関係する皆様と連携し、電設業界の成長・発展になるよう努力していく所存であります。

最後に今年が皆様方にとて最良の年となり、お互いに実り多き一年になりますよう祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 年　頭　挨　拶

国土交通省九州地方整備局

局長 増田博行



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。一般社団法人福岡電業協会の皆様には、平素より、国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

九州地方整備局では、3つの柱を掲げて業務に取り組んでいます。

1つ目は「しっかりと守る」です。熊本地震や九州北部豪雨等からの復旧・復興、九州全体の国土の強靭化を推進し、地域をしっかりと守っていきます。

2つ目は「しっかりと聞く」です。地域の声をしっかりと聞き、我々の仕事へ反映していくことが大切です。

3つ目は「果敢に攻める」です。中長期的な視点から将来の九州のあり方を考えて、今打つべき一手を、機を逃さずに打っていきたいと考えています。

「しっかりと守る」としては、災害からの復旧・復興や災害に強い地域づくりに取り組んでいます。

昨年7月の九州北部豪雨では、被災直後より道路啓開作業や堤防の欠損等の緊急復旧工事に着手し、協定締結の各団体による昼夜を問わない活動もあり、早期に復旧を完了させることができました。

引き続き、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、総力を挙げて取り組んで参ります。

「果敢に攻める」では、未来への投資としてストック効果の高いインフラの整備・活用を進めています。

本年度は、高規格幹線道路の4区間が開通します。昨年11月に南九州西回り自動車道と西九州自動車道の計2区間が開通し、残り2区間の東九州自動

車道（日南北郷～日南東郷IC）と西九州自動車道（南波多谷口～伊万里東府招IC）も開通に向けて整備を進めています。高速ネットワークの広がりによる更なるストック効果の発現が期待されます。

国土交通省では、社会全体の生産性を高め、持続的な経済成長につなげることを目指して「生産性革命プロジェクト」に取り組んでいます。直轄工事で先行するICT活用工事のメリットを広く浸透させ、地方公共団体への普及促進にも取り組んで参ります。

電気工事業を含む建設業界の働き方改革を進めるためには、生産性向上と同時に週休2日を前提とした適正な工期設定と平準化が重要であり、力を入れて取り組んで参ります。

建設業はインフラの「作り手」「守り手」として非常に重要な役割を果たしており、災害時にもなくてはならない存在です。建設業の「担い手確保」のためにも、働き方改革の取組を様々な側面で支援して参ります。

最後になりますが、皆様にとりまして実り多い年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。



## 年頭所感

福岡県知事

小川 洋



新年あけましておめでとうございます。一般社団法人福岡電業協会の皆さんには、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日ごろから電気設備工事の安全施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、7月、九州北部豪雨により、朝倉市、東峰村を中心に甚大な被害に見舞われました。県では、発災直後から、人命救助など応急対応、被災地の皆さんの生活再建支援、道路、河川、農地などの復旧に全力で取り組んできました。

一方、わが国の経済の緩やかな回復基調が続く中、本県経済は、生産、輸出、消費などの指標が全国を上回るなど、景気は緩やかに拡大しつつあります。雇用も、有効求人倍率は県全体で過去最高の1.56を記録し、昭和38年の統計開始以来、初めて全国値を超えるなど着実に改善が進んでおり、この1年間で就業者数は43,000人増えました。

また、かねてからの念願であった「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録が実現し、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、「第37回全国豊かな海づくり大会」を開催するなど、本県の魅力と元気の良さを内外に発信できました。

今年は、まず何より、被災地の復旧・復興に全力で取り組みます。

そして、「県民幸福度日本一」の福岡県を目指し、「福岡県総合計画」および「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」を具体化する施策に重点的に取り組み、景気の拡大を県内各地の皆さんのが実感で

きるようにするとともに、「元気」「温かみ」「安定」を感じられる施策を推進していきます。

グリーンアジア国際戦略総合特区は、取り組みを始めて6年が経過し、設備投資額1,700億円、新規雇用1,200人を突破しました。引き続き、県内雇用の8割を担い、本県経済の発展と活力の原動力である中小企業へのきめ細かな支援を行うとともに、自動車、バイオ、ロボット、水素エネルギー、I・O・Tなど先端成長産業の育成に取り組みます。

昨年、福岡県に入国した外国人は280万人を超え、320隻を超える外国籍のクルーズ船が福岡県に入港し、いずれも過去最高を記録しました。受入環境をさらに充実させ、インバウンド観光客をもっと増やしていきます。

また、一昨年の熊本地震、昨年の豪雨災害を教訓とした地域防災計画の見直しや災害時における支援・受援体制の整備を進めるとともに、建築物の耐震化の推進など、災害に強い県づくりに取り組みます。

安全・安心への関心が高まっている昨今、社会の根幹をなす重要なインフラであり、生活と産業の基盤を支える電気設備の果たす役割はますます広範囲に及んでおり、今後も、高度化・多様化する社会ニーズ的確に対応することが求められています。

電気設備工事に携わる皆さんにおかれましては、時代が求める新しい知識と技能の習得に努められ、地域の皆さんへ安全・安心を提供いただきますようお願いいたします。

新年が皆さんにとって素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

## 年　頭　挨　拶

福岡市長

高　島　宗一郎



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

また、日頃より学校や住宅をはじめ公共施設等の整備を通して市民が安心、安全で快適に暮らせるまちづくりにご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

福岡市では、まちの将来像やまちづくりの方向性などを示す「福岡市総合計画（マスタープラン）」を策定して早くも5年が経ちました。

そのマスタープランにおいて、都市経営の基本戦略と定めた「生活の質の向上と都市の成長の好循環の創出」を実現し、また、その好循環をより確かなものとするために、市民や企業の皆様とともに、福岡を次のステージに飛躍させるためのチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を進めてきました。

その結果、人口は毎年1万5,000人ずつ増加を続け、観光客は2,000万人到達に近づいています。また、クルーズ船の寄港回数は、横浜や沖縄など国内の名だたる港を抑えて、2年連続で日本一となりました。このように、福岡市は、定住や観光の面で、多くの方から選ばれるまちになっています。

好調なまちの現状を表すように、市税収入も4年連続で過去最高を更新しました。そして、この成長の果実を振り向けることによって、ソフト・ハード両面での施策を推進し、生活の質の向上にも着実に取り組んでいるところです。

三大都市圏だけでなく、日本全体が活気にあふれ、明るい未来を拓いていくためには、それぞれの地方が強みを活かしてまちに尖りを出し、人や企業、投資を呼びこんでいく必要があります。そして、地方の成功モデルを数多く作っていくことがこれからの日本にとって重要であり、その中で、人や物が交流し、活気・活力にあふれる福岡市に求められる役割は、非常に大きいと考えています。

「天神ビッグバン」や「ウォーターフロントネクスト」など都市の成長に向けた取組みを引き続き進めていますが、経済だけ元気になればいいという訳ではありません。

100歳まで生きることが特別なことではなくなる時代にあっても、長寿を心から喜べるまちにしていくためのチャレンジ「福岡100」をはじめ、少子化・高齢化が進んでも、生活の質を維持、向上させるための持続可能な仕組みづくりにも、市民や企業の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

「福岡電業協会」の皆様におかれましては、福岡市がますます素晴らしいまちになるよう、今まで蓄積してこられた優れた技術を発揮していただき、市民生活の維持・向上のため、今年も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

最後に、皆様の今年一年のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

# 平成30年 新年賀詞交歓会

(一社)福岡電業協会として恒例の「新年賀詞交歓会」が平成30年1月9日(火曜日)西鉄グランドホテルにおいて開催された。

当日は来賓として、国土交通省九州地方整備局、経済産業省九州産業保安監督部、防衛省九州防衛局、独立行政法人都市再生機構九州支社、福岡県、福岡市、福岡市議会等から多数出席を頂き、正会員及び賛助会員もあわせて220名の参加を得ての開催であった。

主催者を代表して、西村会長より昨年の九州北部豪雨での災害復旧を踏まえ、協会として災害への備えも大きな役割である。建設業界の最大のテーマは「働き方改革」「人材の確保・育成」であり、福岡電業協会として地場ゼネコンとも協調して、週2日の休日を取得できるように努力する。又、各種講習会を開催し建設業の魅力・やりがい・達成感を情報発信し、「夢と生きがいのある電設業界」を目指し電設業界の成長・発展になるよう努力するとした挨拶があった。

来賓を代表して、九州地方整備局 増田局長の代理として佐藤営繕部長が、一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨と九州地方は自然災害と向き合う厳しい地形にあると感じている。福岡電業協会においても、災害後直ちに被災地に入り応急対策にかかわられた皆様、今もなお復旧・復興に人力されている皆様に心より敬意を表します。九州地方整備局としても引き続き被災地の一日も早い復旧・復興に向けて取り組んで参りますとの挨拶であった。

続いて福岡県小川知事の代理として商工部工業保

安課 稲野課長技術代理が、今年は、まず何よりも被災地の復旧・復興に全力で取り組み、そして県民幸福度日本一の福岡県を目指し、「福岡県総合計画」及び「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」を具体化する施策に重点的に取り組み、景気の拡大を県内各地の皆様が実感できるようにするとともに、元気・温かみ・安定を感じられる施策を推進していきます。電気設備工事に携わる皆様には、時代が求める新しい知識と技能の習得に努められ、地域への安全・安心を提供されるようお願いの祝辞であった。

福岡市高島市長の代理として、財政局名古屋理事より、福岡市ではまちの将来像やまちづくりの方向性などを示す福岡市総合計画を策定し5年が経ち、定住や観光の面で多くの方から選ばれるまちになっている。福岡電業協会の皆様には、福岡市がますますすばらしいまちになるよう、今まで蓄積した優れた技術を發揮し、市民生活の維持・向上のため協力を賜りますようにとお願いがあった。

引き続き役所ごとに来賓紹介が行われ、経済産業省九州産業保安監督部上條部長の挨拶と乾杯のご発声で祝宴となった。

会員各位がご来賓の皆様と新年の挨拶を行い会員相互の懇親を深め、和気あいあいとした雰囲気の中、新春の楽しいひと時を過ごした。

最後に、福岡電業協会島田副会長が皆様への御礼と、「担い手育成」「少子高齢化」の問題に対する皆様のご指導・ご鞭撻をお願いして、万歳三唱を声高らかに執り行い盛会に終えた。

